

(別記様式)

令和7年度 京都府立向日が丘支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>◆教育目標「自分らしく 人とともに 今を生きる力を」の実現に向けた方策を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中で幸せな人生を実現する力を獲得するために、一人一人の可能性に着目し、徹底して可能性を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p> <p>◆地域社会と連携協働し、共生社会の形成に積極的に貢献する学校を目指す。</p>	<p>○学校経営 仮設校舎の環境での不便さはあるが、ヒヤリハットの即時共有等、校内の安全全般に対する注意を高め、安心安全の具体化に努めた。また、交流及び共同学習をはじめとする地域社会との協働等、この立地、環境において多くの工夫ができた。令和9年度の新校舎移転に向け「Go to R9」の5つのテーマに沿って、各学部・分掌等において取り組み、それぞれ成果を上げた。業務分担を見直しているが、さらなる改善が必要である。</p> <p>○教育活動 長法寺小学校をはじめとする交流及び共同学習は日常的なものになりつつあり、自然に関わる関係が構築できつつある。令和9年度を見据えた新たな協働、継続したい取組もできた。自立活動の指導の充実に向けて一層の研鑽が求められるが、自立活動の流れ図に基づく考え方や、時間における指導についての意義を共通理解した。授業改善研究を組織的に継続しており、対話を重視した研修方法に切り替え実施した。</p>	<p>仮移転3年目として、以下の重点項目に取り組み、令和9年度の「地域社会とともにあり、共生社会の形成に貢献する学校」像を具体化する。</p> <p>○学校経営 ①特別支援学校に勤務する教職員、教育公務員として、指導の専門性に加え、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び子どもを愛し、育む情熱をもった人材の育成 ②学校防災会議、健康安全教育部の機能を生かしたさらなる安心安全を具体化する取組の推進と、適切な教育環境の創意工夫 ③児童生徒と教職員のウェルビーイング向上をめざし、子どもたちの可能性が輝く授業の実現や充実した教育課程編成 (令和8年度からの実施を目指す。)</p> <p>○教育活動 ①学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育むことを目指した授業改善、教育課程改善の推進 ②自分らしさを豊かに発揮できる自然な交流及び共同学習の充実、授業改善等によるインクルーシブな学校運営の取組の深化 ③地域関係機関及び地域社会との連携協働による教育活動の展開、センター的機能の積極的な発揮による地域における共生社会の形成への貢献 ④小中学部から高等部まで12年間を見通した進路指導の推進</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	・学校経営方針を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・全教職員の協力で作り出す仮設校舎における教育環境の充実	B	B	仮設校舎での生活が2年を超えるなか、工夫して環境整備を進めた。「Go to R9」の研究、交流、自立活動等各テーマの取組はそれぞれ充実してきているが、業務改善については継続して取り組んでいるものの総業務量の削減は実感しにくい状況である。
		・児童生徒、保護者、地域関係者との情報のタイムリーな共有	B		
		・学校経営方針を意識し一貫した各学部、各分掌のマネジメントの実施	A		
		・令和9年度の本校の姿を想定して取り組む「Go to R9」の具現化 (2年目)	A		
		・学校予算の適切かつ計画的な執行	B		
		・各学部、各分掌等における業務内容の徹底した精査による総業務量削減	C		
	・衛生委員会の機能を活用した健康で働きやすい職場環境の形成	B			
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	B	B	人権研修や専門性向上のための特色ある研修を実施し、教職員の視点の拡大と専門性向上を図った。
		・学校経営の重点及びニーズに基づく内容と対話を重視した参加型研修会の実施	B		
・「向日が丘相談・支援センター」機能を生かした、地域のニーズに応え、インクルーシブ教育の推進に寄与する特別支援教育の推進	・地域の学校等に特別支援教育への理解と対応を実現する特徴ある取組の実施	A	A	高等学校や医療的ケアの必要な児童生徒への相談に対応し、校内巡回相談員の活用 (69件、2月末現在) を含め、インクルーシブ教育の視点をもってセンター的機能を発揮した。	
	・校内巡回相談員の専門性を積極的に活用する組織的な相談支援の実施	A			
	・幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携・協働の強化	B			

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と協働する学校経営の推進 ・学校運営協議会の機能を活用した学校経営の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、Instagramを活用した学校情報の積極的発信（更新15回/月） ・本校の存在意義、期待される社会的役割、育成する資質・能力等と、それらを実現するインクルーシブな学校運営、交流及び共同学習の充実、わかりやすい高等部コース制等についての発信 ・学校運営協議会の機能や、保護者アンケートを活用した外部評価の実施 ・地域社会連携部の機能を活用した新たな地域連携の創造と充実 	A	B	HP・Instagramの特性を生かした発信により企業との連携もできた。学校運営協議会における運営改善の意見を踏まえ、次年度の教育課程改善につなげた。保護者アンケートの回答率は約40%（87件）であったが、具体的な評価を得られた。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全を具体化する取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎における安心安全を具体化する取組の推進 ・適切な感染拡大防止対策の徹底 ・避難訓練（年2回以上）、緊急対応訓練（年9回以上）の計画的実施 ・PTAとの連携による避難訓練等の実施 ・医療的ケア担当者会の機能を活用した安全で適正なケアの実施 ・児童生徒一人一人の人権を大切にす取組の推進（いじめ対策委員会による調査と対応 2回/年、全校研修会の実施） ・教具等の安全点検の組織的な実施 ・Teamsの活用によるヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化 	B			B
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との協働を大切に「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 ・児童生徒が多様で豊かな可能性を開花できる授業の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の見方・考え方、自立活動の視点を充実させた授業改善研究の実施 ・社会とのつながりを意識した授業実践の積極的展開 ・児童生徒の潜在能力を引き出し、Creativityの扉が開く授業改善の展開 ・自立活動支援担当との連携による全児童生徒を対象とした「時間における指導」を中心とした、根拠のある自立活動の充実 ・学部間の学びの連続性、学習のまとまりを意識した教育課程の改善 ・社会に開かれた行事としての「学校祭」の企画実施 ・インクルーシブ教育を意識した居住地校交流及び学校間交流の充実 	B	B	授業改善シートの改良や自立活動の流れ図作成、Creativityの扉が開くワークショップ実施により、児童生徒の可能性を引き出す授業を追求した。自立活動支援担当と担任との継続的な連携、根拠のある指導はさらなる改善が必要である。地域との連携、他校との自然な交流も深まり、次年度の教育課程の実施に向けて質の向上を図る。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望進路の実現 ・保護者、関係機関との連携による計画的な進路指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の可能性を伸ばし、共生社会の担い手を育てるキャリア教育の実施 ・組織的で計画的な進路指導による高等部3年生全員の将来の自己実現につながる進路決定 ・研修会等の実施による保護者等への進路情報の提供・共有、教職員の研鑽 	A			B
				B		
				B		
				B		
				B		
				B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達に合わせた丁寧な指導や支援によって、できた喜びや役割を通した自信が積み重なり、子ども達の達成感と自立する力が確実に育っている。「〇できる」ということ以上に、子ども達が自分らしい人生を歩むための根幹となる力を育む学校であってほしい。 ・向日が丘らしい「違いをよさに変える」学校文化が定着し、仮設校舎が地域に溶け込んだことで、自然な交流が広がり安心して選べる開かれた学校になっている。 ・どのような社会へ子どもを送り出すのかという明確なミッションが学校全体に共有される一方で、さらに理念を具体的な行動指針や評価軸として可視化する仕組みづくりを検討してはどうか。Vision—Purpose—Valueを整理し、教育活動とのつながりをより明確に示していくことが求められている。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の取組や研修をさらに発展させ、自立活動の指導の充実を中心として、根拠に基づく指導と可能性を引き出す指導を確立する。 ・巡回相談・地域や企業との連携に加えて、交流及び共同学習のさらなる充実により、向日が丘らしいインクルーシブ教育のセンター的機能をより体系的に高める。 ・教職員の業務量の効率化を図りつつ、ミッションに沿った「あたらしい教育課程」を計画的に進めるとともに、新校舎への移転前年度として引っ越しの見通しを共有し、学校として大切にす行動の考え方（行動指針）と取組を確かめるポイント（評価の視点）をわかりやすく整理する体制づくりを進める。